

# 宮崎県経済の動き

(平成17年1～3月期)

## 目 次

1	総	論	-----	1	
2	各	論	-----	3	
3	資	料	編	-----	8

平成17年6月

宮崎県総合政策本部統計調査課

# 1 総論

本県の経済は、生産は一部に増加の動きがみられたが、生産活動全体としては緩やかな減少となった。消費は依然低調のまま推移しているが、雇用や投資に一部持ち直しの動きがみられる。景気は、持ち直しの動きに引き続き足踏み感がみられる。

各分野の動きを見ると、生産活動は、「食料品・たばこ工業」に増加の動きがみられたが、全体としては緩やかな減少となった。大口電力使用量は、前年同期とほぼ横ばいとなった。

消費関連は、主要ホテル・旅館宿泊客数及び新車登録台数が前年同期を上回り、持ち直しの動きがみられるものの、大規模小売店舗売上状況が前年同期を下回るなど、依然低調に推移している。

雇用情勢は、依然厳しい状況にあるが、新規求人数が前年同期を大きく上回るなど、一部に持ち直しの動きがみられる。

投資関連も、公共工事請負金額が前年同期を上回るなど、一部持ち直した。

企業関連は、企業倒産件数が前年同期を下回ったものの、負債額が前年同期を大きく上回り、依然厳しい状況にある。

## ○主な経済指標

下段：前年同期比(%)または前年同期差(単位)

分野	指標	単位	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
生産	鉱工業生産指数 (季節調整値)	指数 (H12=100)	103.1 18.3	104.7 15.9	108.0 12.8	102.3 1.5	99.1 △ 3.9
	鉱工業在庫指数 (季節調整値)	指数 (H12=100)	87.1 △ 9.3	101.0 4.7	100.5 3.5	70.4 △ 26.7	77.4 △ 11.2
	大口電力使用量	千kwh	433,228 8.4	493,823 18.9	459,534 8.4	457,975 1.3	438,308 1.2
消費	大規模小売店舗 売上状況	億円	422.19 △ 2.0	415.28 △ 4.7	432.23 △ 3.6	471.29 △ 2.5	423.47 △ 2.6
	新車登録台数	台	8,687 △ 7.5	6,053 △ 9.8	7,196 △ 7.6	6,933 1.6	8,766 0.9
	新車届出台数	台	8,047 7.7	6,241 3.1	6,401 1.3	6,099 1.0	7,941 △ 1.3
	航空便 利用客数(乗)	人	413,173 △ 7.6	357,792 0.3	392,474 △ 7.7	384,371 △ 2.1	404,699 △ 2.1
	航空便 利用客数(降)	人	384,934 △ 7.9	352,575 1.0	391,823 △ 7.6	405,069 △ 2.3	381,240 △ 1.0
	主要ホテル・ 旅館宿泊客数	人	295,512 6.4	258,692 13.6	298,544 △ 1.4	311,224 13.6	305,520 3.4
	消費者物価指数 (総合指数)	指数 (H12=100)	97.6 △ 0.2	98.0 △ 0.1	98.1 △ 0.4	98.5 0.7	97.6 △ 0.1
雇用・労働	有効求人倍率 (季節調整値)	倍 ※ 前年同期差	0.55 0.06	0.59 0.09	0.63 0.11	0.63 0.08	0.62 0.07
	新規求人数	人	17,598 7.2	16,595 10.6	18,944 11.6	18,312 9.6	20,001 13.7
投資	新設住宅着工 戸数	件	1,635 △ 0.2	1,938 △ 3.8	2,350 24.3	2,110 △ 4.2	1,478 △ 9.6
	公共工事請負 金額	億円	409.02 △ 21.1	377.50 12.1	658.43 △ 3.1	555.59 △ 13.6	577.92 41.3
企業・金融	企業倒産件数	件	31 40.9	20 △ 35.5	25 △ 3.8	23 △ 20.7	16 △ 48.4
	企業倒産負債額	億円	35.77 △ 10.3	31.13 △ 76.3	67.47 △ 71.5	26.22 △ 51.1	103.16 188.4

注 大規模小売店舗売上の金額(消費税は含まない)は店舗調整前、前年同期比は店舗調整後の数字である。

○前回（平成16年10～12月期）からの変更点

	前 回	今 回
期 間	平成16年10～12月期	平成17年1～3月期
総 論	本県の経済は、生産に <u>一部弱め</u> の動きがみられるほか、 <u>雇用も横ばい</u> となり、また消費は <u>持ち直し</u> の動きがみられるものの、依然低調に推移しており、景気は <u>持ち直し</u> の動きに足踏み感がみられる。	本県の経済は、生産は <u>一部に増加</u> の動きがみられたが、 <u>生産活動全体としては緩やかな減少</u> となった。 <u>消費は依然低調のまま推移</u> しているが、 <u>雇用や投資に一部持ち直し</u> の動きがみられる。景気は、 <u>持ち直しの動きに引き続き足踏み</u> 感がみられる。
生産関連	生産活動は、 <u>増加傾向を続けてきたが、一部に弱めの動きがみられる。</u>	生産活動は、 <u>一部に増加の動きがみられたが、全体としては緩やかな減少</u> となった。
消費関連	消費関連は、 <u>持ち直しの動きがみられるものの、依然低調に推移</u> している。	消費関連は、 <u>持ち直しの動きがみられるものの、依然低調に推移</u> している。
雇用・労働関連	雇用情勢は <u>横ばいの状態</u> となり、 <u>労働関連も依然厳しい状況</u> にある。	雇用情勢は、依然厳しい状況にあるが、 <u>一部に持ち直しの動きがみられる。</u>
投資関連	投資関連は <u>低調に推移</u> している。	投資関連は、 <u>一部持ち直した。</u>
企業・金融関連	企業・金融関連は <u>総じて厳しい</u> 状況にある。	企業・金融関連は、 <u>依然厳しい</u> 状況にある。

## 2 各論

### (1) 生産関連

鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数（3-1表）は、ともに2期連続で前期を下回った。

ウェイトの高い業種別に生産指数（2-1表）の推移を見ると、「電子部品・デバイス工業」は2期連続で大幅な低下となり、「食料品・たばこ工業」は大幅な上昇となった。

鉱工業在庫指数（3-1表）は、前期を上回った。

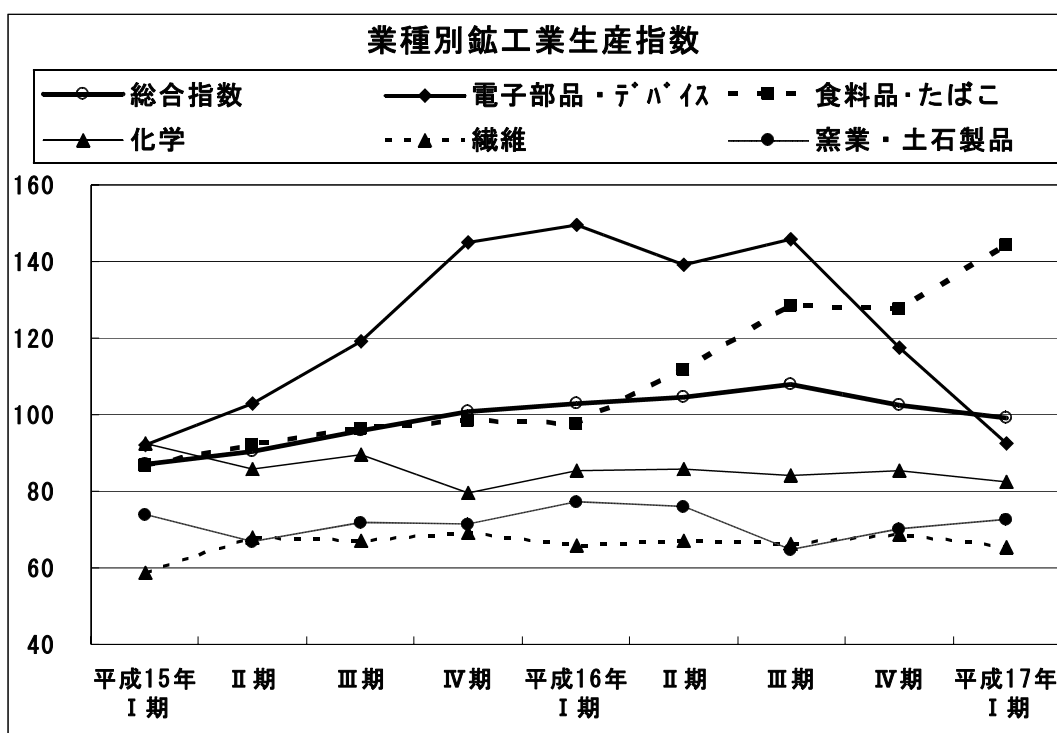
在庫循環の推移を示す在庫循環図（2-2表）で見ると、「在庫調整局面」となった。

大口電力使用量（3-2表）は、前年同期とほぼ横ばいであった。

生産活動は、一部に増加の動きがみられたが、全体としては緩やかな減少となった。

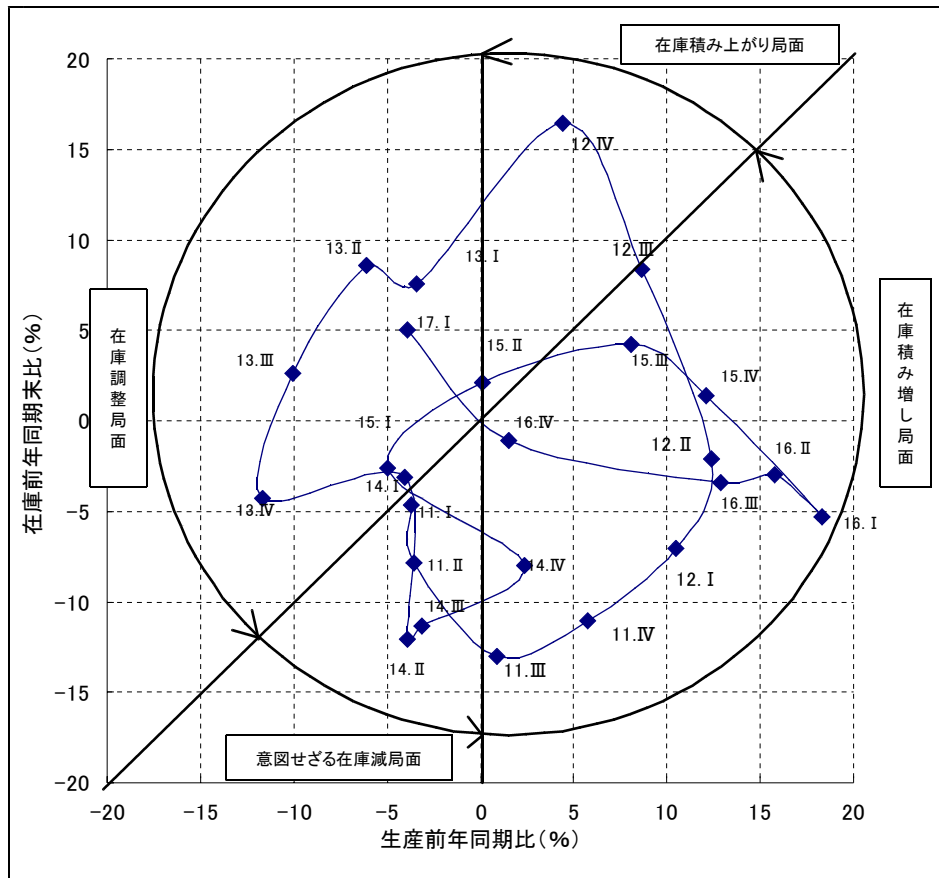
○主な業種別鉱工業生産指数（平成12年=100）

（2-1表）



○在庫循環図

(2-2表)



※1 生産前年同期比、在庫前年同期末比は原指数で算出。

※2 在庫前年同期末比は、昨年と今年の各3, 6, 9, 12月を比較。

○在庫循環図

在庫循環図は、生産指数の伸び率と在庫指数の伸び率を利用して、在庫循環の4段階を示した図である。

○在庫循環図が示す4段階

I 意図せざる在庫減局面【景気回復初期局面】

生産、在庫ともに縮小で、かつ生産より在庫の方がより縮小している状態である。

II 在庫積み増し局面【景気回復局面】

生産を増加させて在庫を積み増していき、在庫の伸びは生産の伸びを上回ることがない状態である。

III 在庫積み上がり局面【景気減速局面】

生産はなおも増加基調であり、その生産の増加率を上回って在庫が増加していく状態である。

IV 在庫調整局面【景気低迷局面】

生産は減少に転じ、在庫水準を下げていく状態である。

## (2) 消費関連

大規模小売店舗売上状況（3－3表）は、店舗調整後で前年同期を下回った。

新車登録台数、新車届出台数（3－4表）は、ともに前年同期とはほぼ横ばいであった。

航空便利用客数（3－5表）は、乗降客数ともわずかに前年同期を下回った。

主要ホテル・旅館宿泊客数（3－6表）は、前年同期を上回った。

消費者物価指数（3－7表）は、総合指数、生鮮食品を除く総合指数ともに前年同期と横ばいであった

消費関連は、持ち直しの動きがみられるものの、依然低調に推移している。

## (3) 雇用・労働関連

有効求人倍率（3－8表）は、前年同期を上回った。また、全国の完全失業率（3－8表）は、4％半ばで推移している。

新規求人数（3－9表）は、前年同期を大きく上回った。

実質賃金指数（きまって支給する給与）、総実労働時間指数、常用雇用指数（3－10表）は、前年同期を下回った。

雇用情勢は、依然厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。

## (4) 投資関連

新設住宅着工戸数（3－11表）は、2期連続で前年同期を下回った。

公共工事請負件数、請負金額（3－12表）は、当期、年度累計ともに前年同期を上回った。

投資関連は、一部持ち直した。

## (5) 企業・金融関連

企業倒産件数（3－13表）は前年同期を下回ったが、負債額（3－13表）は前年同期を大きく上回った。

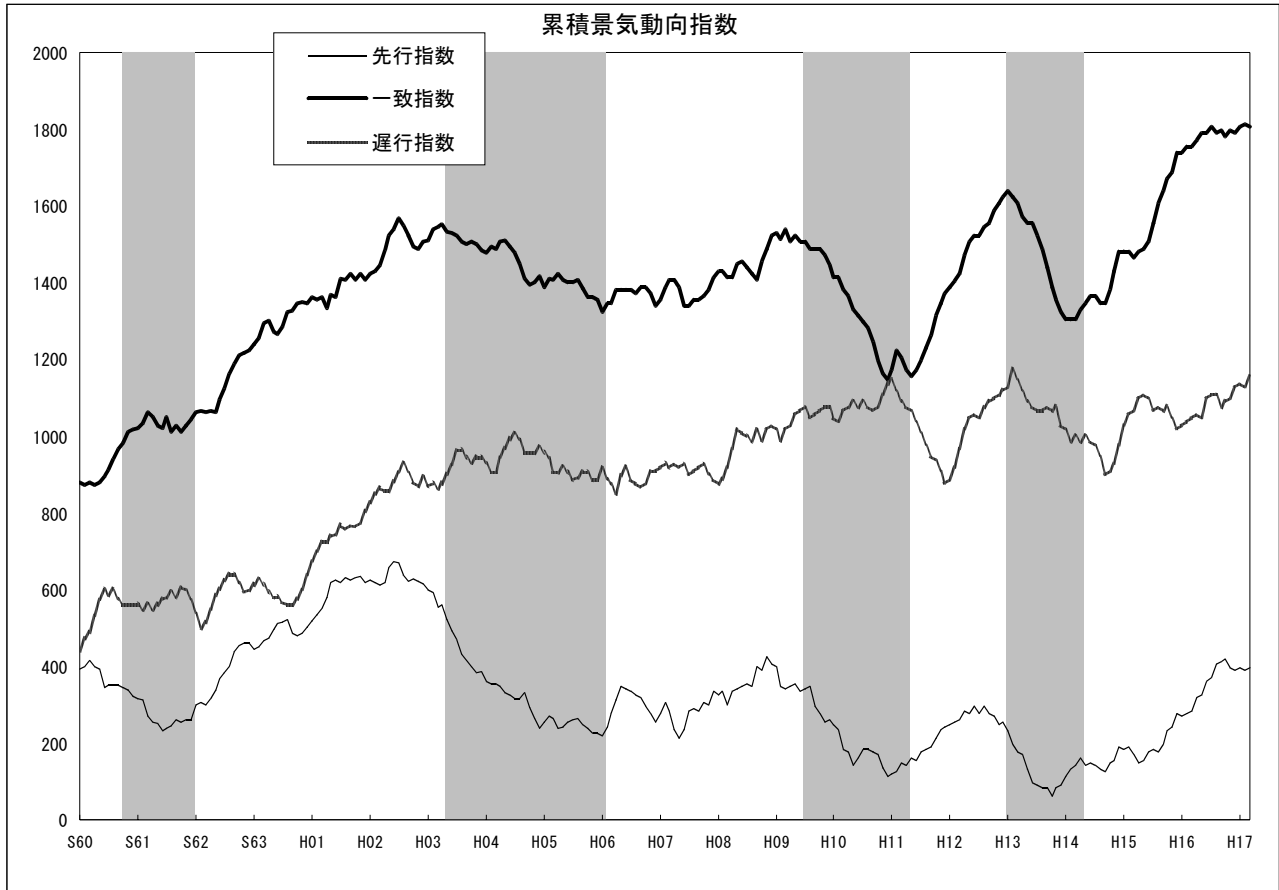
金融機関預金残高（3－14表）、金融機関貸出金残高（3－15表）はともに前年同期と横ばいであった。

企業・金融関連は、依然厳しい状況にある。

## ○景気動向指数

累積景気動向指数（2-3表）は、一致指数が緩やかな上昇傾向となっている。

（2-3表）



### ○景気動向指数

- 1 複数の経済指標の変化（伸び率は関係ない）を合成し、数値化したものである。
- 2 景気動向指数は、景気の方角性を示すものであり、その数値の大きさは、景気変動の大きさを示すものではない。
- 3 景気動向指数には、景気に先行して動く「先行指数」、ほぼ一致して動く「一致指数」、遅れて動く「遅行指数」の3種類がある。

### ○累積景気動向指数（累積DI）

- 1 景気動向指数（DI）の月々の値を累積したものが、累積景気動向指数（累積DI）である。  
◆ 今月の累積DI = 前月の累積DI + (今月のDI - 50)
- 2 累積DIには、景気の動きと連動する性質があるため、景気の動きを視覚的にとらえやすいという利点がある。

なお、本県の景気後退期は、

昭和60年10月～昭和61年12月、平成3年5月～平成6年1月、平成9年7月～平成11年4月  
平成13年1月～平成14年4月

である。

< 資 料 編 >



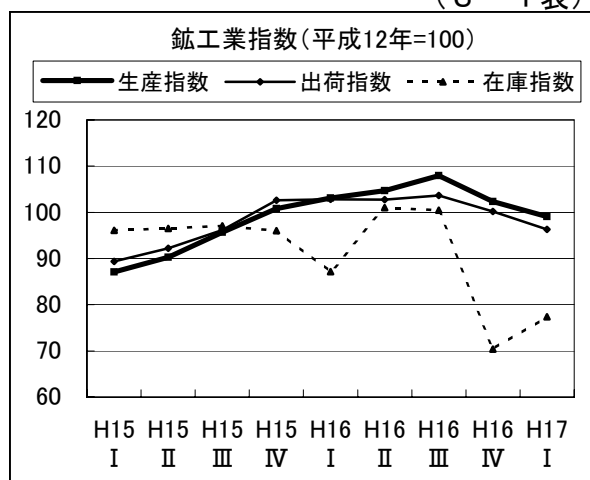
### 3 経済指標の動き

#### 生産関連

#### (1) 鉱工業指数(平成12年=100:季節調整済指数)

(3-1表)

- 生産指数は、2期連続で前期を下回った。
- 出荷指数は、2期連続で前期を下回った。
- 在庫指数は、前期を上回った。



平成12年=100

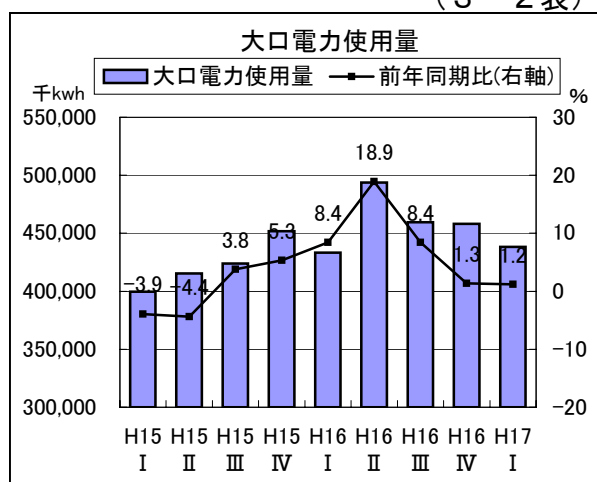
鉱工業指数	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
生産指数	87.1	90.3	95.7	100.8	103.1	104.7	108.0	102.3	99.1
出荷指数	89.4	92.2	96.2	102.6	102.8	102.7	103.7	100.2	96.3
在庫指数	96.1	96.5	97.1	96.0	87.1	101.0	100.5	70.4	77.4

(資料：県統計調査課)

#### (2) 大口電力使用量

(3-2表)

- 大口電力使用量は、前年同期とほぼ横ばいであった。



単位：千kwh

	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
大口電力使用量	399,537	415,223	423,829	451,896	433,228	493,823	459,534	457,975	438,308

(資料：九州電力(株)宮崎支店)

# 消費関連

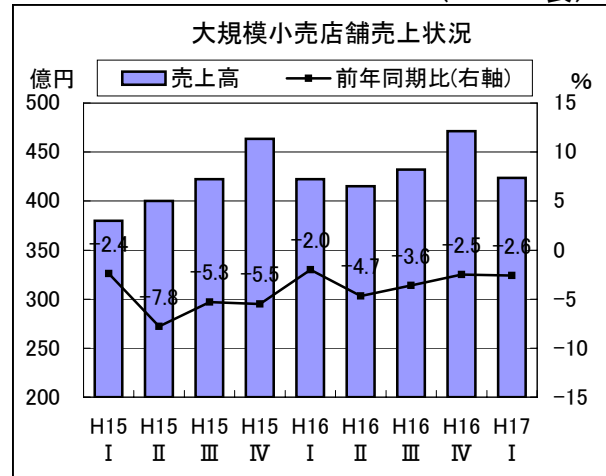
## (3) 大規模小売店舗売上状況

(百貨店、専門店及びスーパー 計24社89店舗)

○大規模小売店売上状況は、店舗調整後で前年同期を下回った。

※ 平成16年1月調査より調査対象先を拡大したため、売上高は連続しない。  
 ※ 前年同期比は、店舗調整後の比較である。

(3-3表)



単位：億円

	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
衣料品	87.10	90.31	78.38	98.65	94.21	87.75	74.28	91.57	84.57
食料品	113.27	117.08	135.55	144.46	131.59	132.74	149.75	158.73	134.74
その他	179.36	192.71	208.24	220.18	196.39	194.78	208.20	220.99	204.16
計	379.73	400.10	422.17	463.29	422.19	415.28	432.23	471.29	423.47

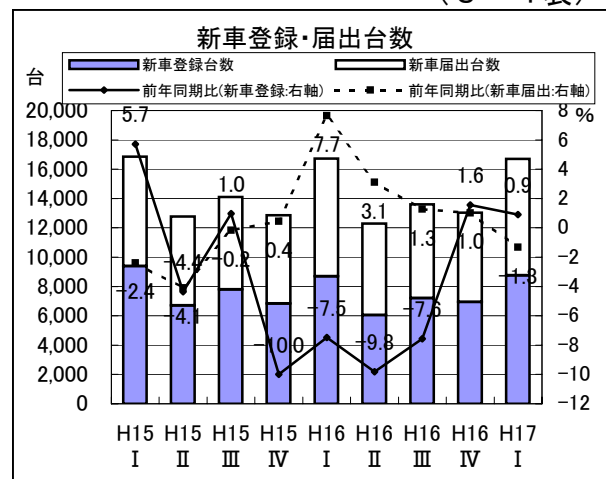
(資料：九州財務局宮崎財務事務所)

## (4) 新車登録・届出台数

○新車登録台数は、前年同期とほぼ横ばいであった。  
 新車届出台数は、前年同期とはほぼ横ばいであった。

※ 届出自動車は、排気量660cc未満の自動車である。

(3-4表)



単位：台

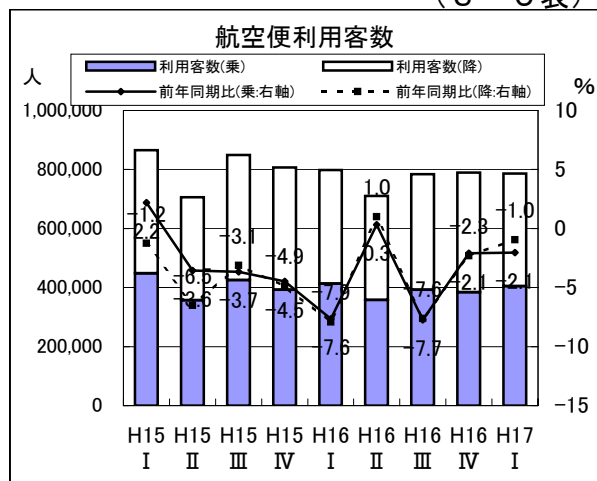
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
新車登録台数	9,389	6,712	7,785	6,827	8,687	6,053	7,196	6,933	8,766
新車届出台数	7,475	6,053	6,321	6,038	8,047	6,241	6,401	6,099	7,941

(資料：日本自動車販売協会連合会宮崎県支部)

(5) 航空便利用客数

(3-5表)

○乗客数は、わずかに前年同期を下回った。  
降客数は、わずかに前年同期を下回った。



単位：人

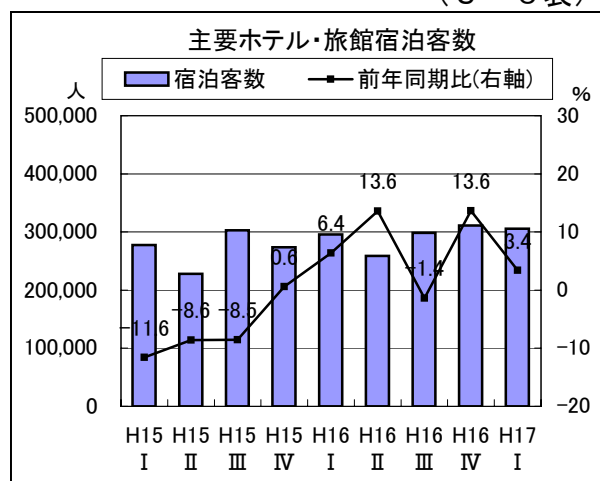
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
利用客数(乗)	447,397	356,606	425,342	392,589	413,173	357,792	392,474	384,371	404,699
利用客数(降)	417,998	349,130	424,191	414,612	384,934	352,575	391,823	405,069	381,240

(資料：宮崎交通株)

(6) 主要ホテル・旅館宿泊客数

(3-6表)

○主要ホテル・旅館宿泊客数は、前年同期を上回った。



単位：人

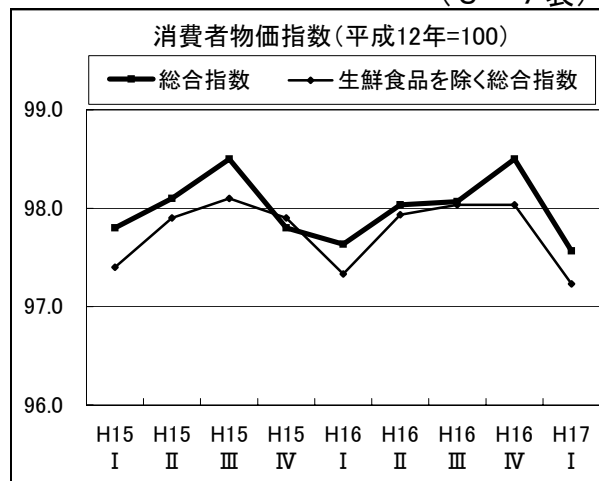
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
宿泊客数	277,758	227,781	302,756	273,865	295,512	258,692	298,544	311,224	305,520

(資料：県観光・リゾート課)

(7) 消費者物価指数(平成12年=100)

(3-7表)

○総合指数は、前年同期と横ばいであった。  
生鮮食品を除く総合指数は、前年同期と横ばいであった。



平成12年=100

	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
総合指数	97.8	98.1	98.5	97.8	97.6	98.0	98.1	98.5	97.6
生鮮食品を除く	97.4	97.9	98.1	97.9	97.3	97.9	98.0	98.0	97.2

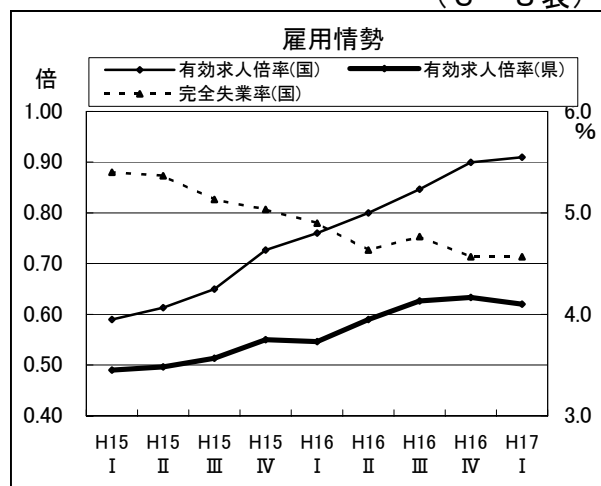
(資料：県統計調査課)

雇用・労働関連

(8) 雇用情勢

(3-8表)

○有効求人倍率(県)は、前年同期を上回った。  
完全失業率(全国)は、4%半ばで推移している。



単位：倍、%

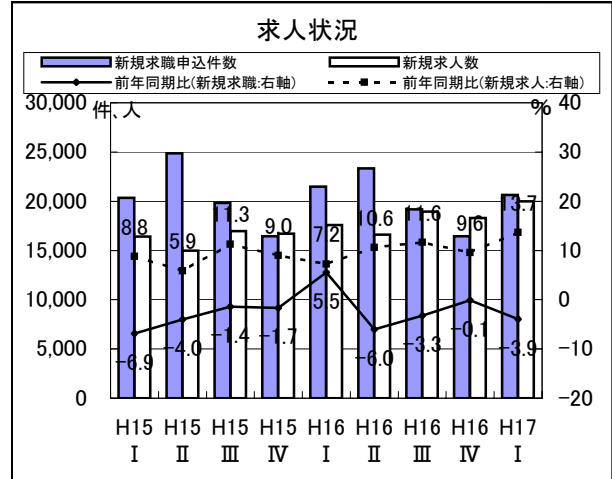
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
有効求人倍率(国)	0.59	0.61	0.65	0.73	0.76	0.80	0.85	0.90	0.91
有効求人倍率(県)	0.49	0.50	0.51	0.55	0.55	0.59	0.63	0.63	0.62
完全失業率(国)	5.4	5.4	5.1	5.0	4.9	4.6	4.8	4.6	4.6

(資料：総務省、宮崎労働局職業安定部)

(9) 求人状況

(3-9表)

○新規求人数は、前年同期を大きく上回った。



単位: 件、人

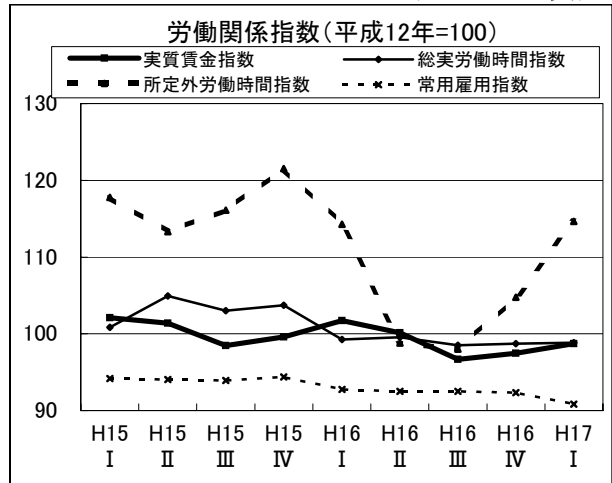
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
新規求職数	20,354	24,851	19,835	16,459	21,478	23,348	19,190	16,445	20,632
新規求人数	16,410	14,998	16,968	16,709	17,598	16,595	18,944	18,312	20,001

(資料: 宮崎労働局職業安定部)

(10) 労働関係指数(平成12年=100)

(3-10表)

○実質賃金指数、総実労働時間指数、常用雇用指数は、前年同期を下回った。



平成12年=100

	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
実質賃金指数	102.1	101.4	98.5	99.6	101.7	100.1	96.7	97.5	98.7
総実労働時間指数	100.8	104.9	103.0	103.7	99.3	99.5	98.5	98.7	98.8
所定外労働時間指数	117.8	113.3	116.1	121.5	114.3	98.8	98.0	104.8	114.7
常用雇用指数	94.2	94.0	93.9	94.4	92.7	92.5	92.5	92.3	90.8

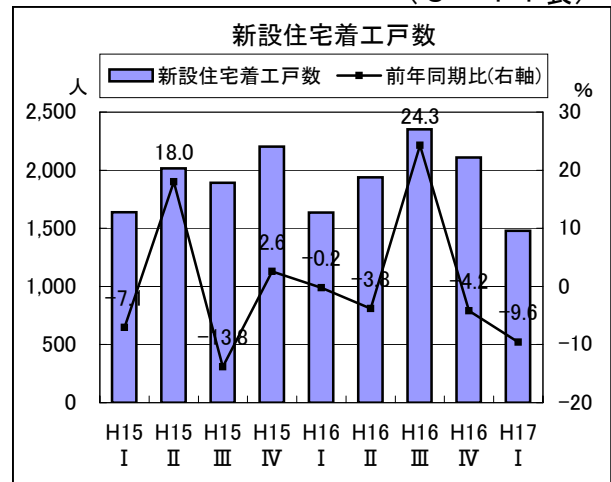
(資料: 県統計調査課)

## 投資 関 連

### (11) 新設住宅着工戸数

(3-11表)

○新設住宅着工戸数は、2期連続で前年同期を下回った。



単位：戸

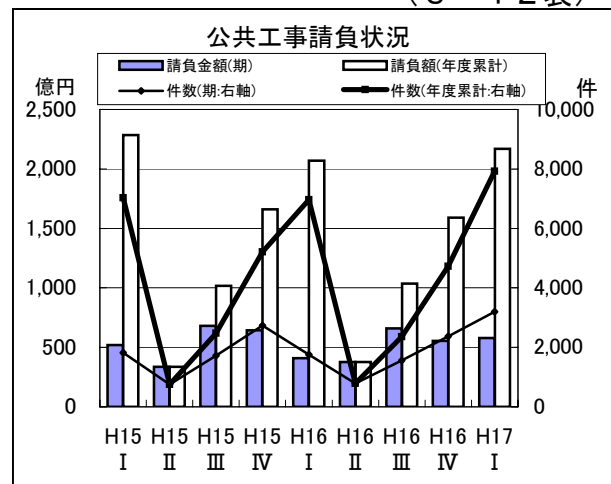
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
新設住宅着工戸数	1,639	2,015	1,891	2,203	1,635	1,938	2,350	2,110	1,478

(資料：県建築住宅課)

### (12) 公共工事請負状況

(3-12表)

○公共工事請負件数は、当期、年度累計ともに前年同期を上回った。  
公共工事請負金額は、当期、年度累計ともに前年同期を上回った。



単位：件、億円

	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
件数(期)	1,824	754	1,721	2,733	1,759	791	1,564	2,372	3,193
件数(年度累計)	7,026	754	2,475	5,208	6,967	791	2,355	4,727	7,920
請負金額(期)	518.56	336.62	679.56	643.13	409.02	377.50	658.43	555.59	577.92
請負金額(年度累計)	2284.40	336.62	1016.20	1659.34	2068.38	377.50	1035.96	1591.57	2169.51

(資料：西日本建設保証(株)宮崎支店)

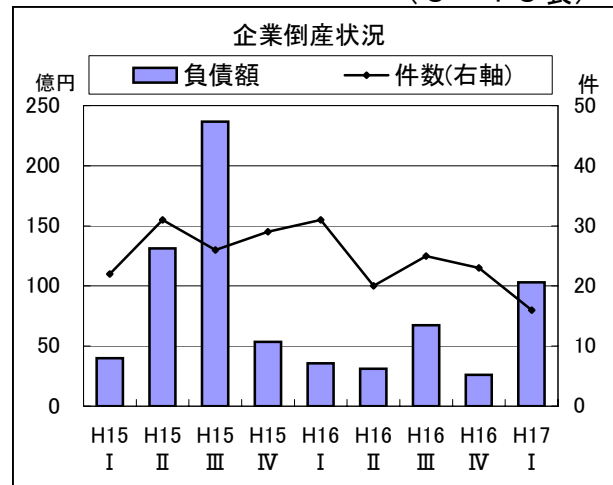
# 企業・金融関連

## (13) 企業倒産状況

(負債総額1千万以上の法人及び個人企業)

- 企業倒産件数は、前年同期を下回った。
- 負債額は、前年同期を大きく上回った。

(3-13表)



単位：件、億円

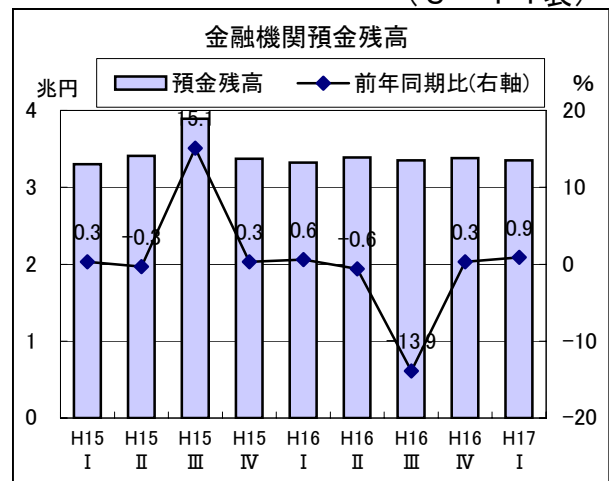
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
件数	22	31	26	29	31	20	25	23	16
負債額	39.89	131.14	236.66	53.62	35.77	31.13	67.47	26.22	103.16

(資料：東京商工リサーチ)

## (14) 金融機関預金残高

- 金融機関預金残高は、前年同期と横ばいであった。

(3-14表)



単位：兆円

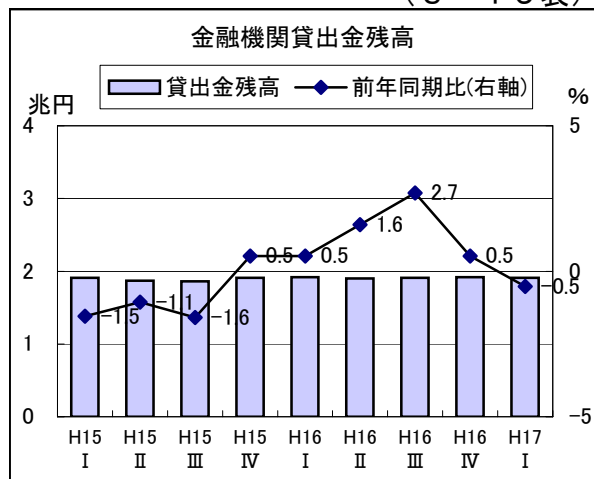
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
預金残高	3.30	3.41	3.89	3.37	3.32	3.39	3.35	3.38	3.35

(資料：日本銀行宮崎事務所)

(15) 金融機関貸出金残高

(3-15表)

○金融機関貸出金残高は、前年同期と横ばいであった。



単位：兆円

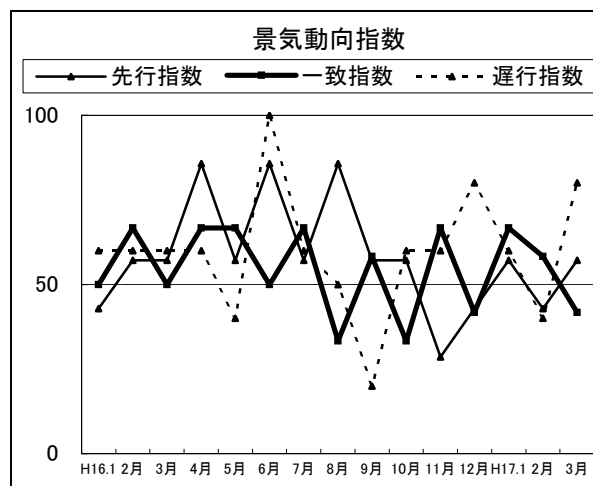
	H15 I	H15 II	H15 III	H15 IV	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV	H17 I
貸出金残高	1.91	1.87	1.86	1.91	1.92	1.90	1.91	1.92	1.91

(資料：日本銀行宮崎事務所)

景気動向指数

(16) 景気動向指数

○先行指数は、1月、3月に50.0%を上回った。  
一致指数は、1月、2月に50.0%を上回った。  
遅行指数は、1月、3月に50.0%を上回った。



	H16 7	H16 8	H16 9	H16 10	H16 11	H16 12	H17 1	H17 2	H17 3
先行指数	57.1	85.7	57.1	57.1	28.6	42.9	57.1	42.9	57.1
一致指数	66.7	33.3	58.3	33.3	66.7	41.7	66.7	58.3	41.7
遅行指数	60.0	50.0	20.0	60.0	60.0	80.0	60.0	40.0	80.0

(資料：県統計調査課)